

福島県昭和村

■体験内容（受入レポートから）

- 大芦地区地域資源調査
- カスミソウ選花体験
- からむし織の体験・体験生との交流

■報告者

- 市町村　　：本名　久喜（総務課企画係）
- 体験調査員：及川　一輝（千葉大学大学院）
 鄭　叡智　（立教大学）

福島県 昭和村 「からむし織とカスミソウの里」

インターン受け入れレポート

担当 総務課企画係 本名久喜

【受入期間】 平成21年 8月23日（日）～平成21年 9月 6日（日）

【体験調査員】 及川一輝（オイカワ カズキ） 岩手県出身

千葉大学大学院園芸学研究科1年

鄭 叡智（ジョン イエジ） 韓国出身

立教大学観光学部交流文化学科3年

【昭和村の概要】

昭和2年11月、大芦村・野尻村の合併により当時の年号にあやかり昭和村が誕生しました。福島県会津地区のほぼ中央に位置し、周囲を1,000m級の山々に囲まれ209.34km²と広大な面積を有していますが、その9割が山林で、只見川の支流である野尻川・玉川・滝谷川の3本の河川が流れる標高400m～800mの平坦地に10の集落で構成された農山村です。



人口は昭和30年に4,810人を記録しましたが、現在は約3分の1の1,500人まで落ち込み、特に村内の学校は小学校1校児童数46名、中学校1校生徒数21名で、小学校では複式学級が2クラスあり、複式解消事業として村単独で講師を付け教育を行っているところです。また、65歳以上の比率も54%と高く、国内でも少子・高齢化率が非常に高くなっている地域です。

気象は日本海型で、冬期間は降雪が多く最高積雪は2mにも達し、特別豪雪地帯にも指定されています。基幹産業は農業ですが、夏季は冷涼で主たる耕作地は平均気温22.1度、最高気温27.4度、最低気温15.5度と日較差が大きく、7～9月の平均降水量は510mmと少なめで、これらの気象条件が夏秋季の宿根カスミソウ栽培に適していることから一大産地に成長してきました。また、四季折々に美しく変化する豊かな自然を守りながら600有余年にも渡り綿々と受け継がれてきた本州唯一の「からむし」生産地でもあり、地域資源を活用し、平成6年度から『からむし織体験生「織姫・彦星」事業』を展開しています。

＊「からむし」：イラクサ科の多年草植物で、別名「苧麻（ちょま）」または「青苧（あおそ）」とも呼ばれ越後上布や小千谷縮布の原料として出荷され、本州唯一の生産地として、「からむしだけは絶やすなよ」と言い伝え守られてきた。

【受入の目的】

高齢化率50%超の過疎地域住民との交流をとおり、都市部に生活する若者から見た現状を踏まえ、調査員として感じたこと考えたことについて提言をいただき、本村の活性化に結びつけて、さらに調査員との末永い交流を構築していく。

【受入内容】

- ・ 体 験 内 容～NPO法人芋麻倶楽部が取り組んでいる事業に参画
 - ◎村民との交流（自宅や事業所訪問）を主体に聞き取り調査を実施
（高齢化率の高い地域での農業問題や空き家対策、観光資源開発等について）
- ・ 活動の拠点～過疎高齢化の進んでいる大芦地区を中心に活動
- ・ 宿 泊 形 態～古民家を借り自炊生活

【スケジュール】

日 程	体 験 内 容		活動場所
	午 前	午 後	
8月23日	移 動・入 村	村内散策・簡易オリエンテーション	—
8月24日	関係者挨拶・オリエンテーション	ワークキャンプ ^o との合流	大芦・小野川
8月25日	地域資源調査説明	調査区内視察	大 芦
8月26日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
8月27日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
8月28日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
8月29日	休日（週末ワークキャンプ ^o 自由参加）		大 芦
8月30日	休日		大 芦
8月31日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
9月 1日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
9月 2日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
9月 3日	カスミソウ選花体験	からむし織体験生との交流	下中津川・喰丸
9月 4日	地域資源調査取纏め	調査員報告会	大芦・下中津川
9月 5日	会津地方観光視察	ワークキャンプ ^o メンバーとの送別会	会津・小野川
9月 6日	帰 郷	—	—



地域での歓迎会



国際ワークキャンプ^oメンバーと

【活動内容】

1) 大芦地区地域資源調査

当該地域は昭和村合併前の大芦村として中心地であったが過疎・高齢化が進み、年齢別構成では年少人口が5.1%、生産年齢人口が39.5%、老年人口にあっては55.4%（75歳以上でも38.7%）と地域内では半数以上の方々が高齢者で締めている。このような状況下にあるため、集落支援への取り組みも視野に、地域における農業問題や、空き家対策、更には観光交流事業に対し、限られた時間内で地域住民に協力を依頼し、聞き取り調査を実施した。

2) 農業体験



同時期にNPO法人苧麻倶楽部によって、国際ワークキャンプ（日本、アメリカ、韓国、台湾、スペイン等）の受入により農業ボランティア等を実施していたことから、国際交流を併せて当該事業にも参加し、草刈り機の操作やカスミソウ栽培農家へ出向き、選花作業の体験を実施した。

3) からむし織の体験と織姫との交流

「からむし」は越後上布や小千谷縮布の原料供給地として、昭和村では600有余年にわたり綿々と受け継がれて栽培されている貴重な文化遺産である。

昭和村では平成6年度より「からむし織体験生」として、今までに84名の織姫・彦星を受け入れ、栽培から糸づくり、織りに至るまで約1年間の体験交流事業を展開している。このため、本年度の受け入れ者（北は宮城県、南は広島県と全国各地から4名）であるからむし織体験生からも農山村での生活文化や産業の振興について聞き取りを行い交流を深めた。

【昨年度との比較】

本年度の受入には体験拠点の選定を行ったことから、当該地域に居住しての活動のため地域住民との交流も芽生え、特に調査に伴う移動等では不便を来さなかった。

【昨年度との比較】

プログラムの作成にあたっては、受入先であるNPO法人苧麻倶楽部が主体的に取り組を進め、宿泊施設についても活動拠点地内の古民家を事前に確保することができ、スムーズにインターン生を迎え入れることができた。

また、新たな受入地となった大芦区長はじめ区民が快く若者を迎え入れ、交流事業の展開が図れた。

【受入の成果】

1) 受入の成果・評価

- ① 織姫事業による交流事業が長年続いたこともあって、地域住民が都会の若者を快く受け入れ、孫の代との会話に花が咲いたと喜んでいただけた。
- ② 今回の事業による聞き取り調査結果からは、地域の方々が考える農業事情や観光交流事業に対する意欲が高く、村勢を図るうえでの現況把握ができた。
- ③ 宿泊先は空き家となった農家住宅を借り受け、国際ボランティア参加者との共同自炊生活により、国際交流も兼ねた田舎暮らしを体験していただいた。
- ④ 地域内での聞き取り調査結果を踏まえて、庁内の関係部署には今後の事務事業展開に繋げられるよう諸問題を提起することができた。



生活拠点の古民家にて

2) 計画と実施の違い

- ① 当初の予測では、高齢者世帯が多いことから聞き取り調査実施に向け在宅者が多くあるものと想定していたが、自家用の農菜園や医療機関への通院などで、不在が多く、体験調査員には迷惑をかけてしまった。
- ② 休日も返上して週末ワークキャンプに参加していただき、ボランティア要員として活発に活動していただいた。

3) 今後の期待・展望

- ① 昨年に引き続き本事業による体験調査員の受入を実施してきたが、都市部在住の若者は以前にも増して地方に対する熱い想いと視線が強まってきているように感じることができた。

特に、今回の調査員結果を踏まえ当該調査活動地域を例に存亡を訪ねたとき、行政が目標とする地域活性化を図る前に、地域基盤の健全化（地域内循環による若者の定住策）を目指していかないと地域集落の機能が働かず、10年後には間違いなく消滅してしまう。と忌憚のない意見が飛び交い、過疎・少子高齢化の進む我が昭和村にとって厳しい現状を訴えられ、今後の地域づくりに向けた大きな問題提起となった。

これは、地域を純粹に見ていただいた結果であり、今後もインターン参加者とは絆を大切に交流を続け、若者との交流機会の拡大を図りながら継続を図ってきたい。

平成 21 年度 国土交通省 若者の地方体験交流事業 体験調査レポート

派遣地域：福島県昭和村

体験期間：8 月 23 日～9 月 6 日（15 日間）

千葉大学大学院 園芸学研究科 環境園芸学専攻

修士 1 年 及川 一輝

1. 参加動機

元々地域づくりに興味があり将来は自分の地元に帰り、そういった仕事に就ければと考えている。また、卒業論文でグリーンツーリズムについて取り上げ、修士論文でも同様に取り上げるつもりである。そのグリーンツーリズムの可能性を探るべく論文を作成しているのだが、そのためにも地方の実状や取り組みについて身をもって感じる事が重要であると考えている。そこで、大学の掲示板で当事業を知ったことが参加に至ったきっかけである。

2. 目的

参加動機でも述べたが、地方の実状や取り組みを実際の体験をもとに知ることが最も大きな目的である。また、今まで学んできたことが地域のために使えるものか、今後どういうことを学んでいけばいいかを知ることも重要である。

3. 昭和村概要

昭和村は福島県の南西部に位置し人口は 1,600 人余り、高齢化率は 50%を超えている（2009 年 7 月 1 日現在）。耕地は標高 400～800m に広がっており、冬期間は積雪が多く、日本海性の気候を有しており、夏期は冷涼で主たる耕作地は平均気温 22.1 度、最高気温 27.4 度、最低気温 15.5 度と日較差が大きく、7～9 月の平均降水量は 510mm と少なめである。

主要産業としてカスミソウ栽培があり、6 月から 10 月の東京中央卸売市場におけるシェアの半分を占めている。また、伝統産業として本州唯一の「からむし」生産があり、からむし織体験生「織姫・彦星」事業を展開している。



4. スケジュール

8 月 23 日	日	AM	（来 村）	8 月 31 日	月	AM	大芦地区地域資源調査
		PM	村内関係者挨拶			PM	大芦地区地域資源調査
		夜	フリー			夜	フリー
8 月 24 日	月	AM	オリエンテーション	9 月 1 日	火	AM	大芦地区地域資源調査
		PM	村内周辺散策			PM	大芦地区地域資源調査

		夜	歓迎会			夜	フリー
8月25日	火	AM	調査打ち合わせ	9月2日	水	AM	大芦地区地域資源調査
		PM	調査及び地域住民との交流会			PM	大芦地区地域資源調査
		夜				夜	フリー
8月26日	水	AM	大芦地区地域資源調査	9月3日	木	AM	カスミソウ選花研修
		PM	大芦地区地域資源調査			PM	おり姫と交流
		夜	フリー			夜	民泊
8月27日	木	AM	大芦地区地域資源調査	9月4日	金	AM	地域資源調査取り纏め
		PM	大芦地区地域資源調査			PM	報告会(役場)
		夜	フリー			夜	
8月28日	金	AM	大芦地区地域資源調査	9月5日	土	AM	周辺散策
		PM	大芦地区地域資源調査			PM	周辺散策
		夜	フリー			夜	送別会・報告会
8月29日	土	AM	休暇	9月6日	日	AM	帰省
		PM	(週末ワークキャンプ開催)			PM	
		夜				夜	
8月30日	日	AM	休暇				
		PM	(週末ワークキャンプ開催)				
		夜					

5. 活動内容紹介

・大芦地区地域資源調査

村内でも著しく高齢化が進み、空き家、耕作放棄地等の問題が見られる大芦地区での聞き取り調査を行った。内容は、耕作地、地区内の農業について、空き家問題、都市農村交流等の現状、意識調査である。8月25日に調査打ち合わせを行い、8月26日から9月2日まで(8月29・30日を除く)の7日間で地区内の約80戸から調査のご協力を頂いた。

事前に当事業担当者に回覧板にて通知をしていただいていたが、直接お宅に訪問する調査なので断られることも考えていた。しかし、ほとんどのお宅が親切に接してくださったため、調査は順調に進行し楽しく進めることが出来た。

・ワークキャンプメンバーの活動に参加

NPO 苧麻倶楽部が受け入れているワークキャンプメンバーと、草刈り、薪割り、田んぼの稗抜きを行った。ワークキャンプには様々な国からの参加者が多くいたため、語学の勉強にもなり予想外の体験も出来た。活動中には地域住民との交流や地域の料理をご馳走になったりとお世話になった。

・カスミソウ選花研修

カスミソウ栽培は昭和村の主要産業である。朝収穫したカスミソウを選花し、出荷出来る状態にするまでの過程を拝見させていただき、また実際に作業にも参加させていただいた。選花作業は見ていただけだと簡単にこなしているように感じたが、実際にやってみるとそれが直接出荷されるということもあり一々聞きながらの作業になってしまった。お世話になったのは昨年研修を受け、今年から実際に栽培を行っている方である。そのため、この村に移住してきた理由、カスミソウ栽培の魅力と大変さ、村に住んでみての感想等、多くの興味深い話を聞くことが出来た。

作業の邪魔にはなってしまったが、カスミソウに実際に触れることが出来、また多くの話を聞かせていただいたので収穫が多い体験だった。



6. 地域への提案

調査結果

調査打ち合わせ日：8/25

実施日程：8/26～28、8/31～9/2（7日間）

調査件数：80戸

調査結果から

- ・高齢化率が非常に高く農業後継者がいないため、地域住民の意見にもあったが、あと10年、20年したら大芦地区は存続不可能になってしまう。一番の理由として、大芦地区含め昭和村に就職先がないことがある。働ける場がなく、若者は都市へ流出してしまい、その結果さらに産業の需要がなくなり、過疎化・地域産業の撤退が進行し、悪循環に陥ってしまう。
- ・休耕地が全耕作地の45%を占め、また、その休耕地を無料で貸し出してもいいという人がほとんどだった。
- ・都市農村交流を望む声は87%と多い。
- ・過疎化の進行により空き家が増え、安く借りられる住居が多くある。

提案

『活性化ではなく健全化』

昭和村及び大芦地区の現状から、地域の活性化の前にまず健全化をしなければならない。地域活性化とはその地域のコミュニティの動きを活発にすることであり、過疎対策や雇用創出が問題になっている時点でまだその段階ではない。健全化とは、地域に子供が生まれその子供が大人になり、またその地域

で子供を産めるという基盤がある状況である。そこで、まずは健全化を目指さなければならない。

① 半農半Xが実現できる場所

現金収入を得ることが出来るXを持った人に限定して募集する。

この地域の利点として、以下が挙げられる。

- ・安く借りられる空き家がある。
- ・地代なしで借りられる耕作放棄地がある。

ここで農業の位置付けだが、自明のことではあるが調査結果や昭和村のみなさんの話から生業としては成り立たない。そこで、こういった土地を農業としてではなく農的な生活が出来る場所として提案する。新規就農で自給生活をしてみたいという需要はあり、自給生活が出来る基盤がすでに大芦地区には用意されている。半農半Xが実現出来る基盤がある場所として他地域と差別化し新住民を募集する。

② 語学研修要素が入ったグリーンツアー

滞在中はワークキャンプメンバーと共に活動することが多くあり、そこで参加者の出身国が多様であることに驚かされた。また、外国出身の参加者とともに2週間生活することで、私自身がかなり英語の勉強になった。

そこで、ワークキャンプに参加する外国人の多さをグリーンツアーに活かすのである。もはや国際化という言葉も平然と馴染んだ世間で語学力は非常に重要なことである。そこで、英語が必須能力となっているような社会人、教育熱心な親をターゲットに語学研修目的のグリーンツアーを企画するのである。経営的に見ると厳しいグリーンツーリズムだが、そこに語学研修要素を入れることによって付加価値を付けることが出来る。

7. 感想

目的であった地方の現状を知るという点で、昭和村の特に大芦地区は社会構造からの解決が求められるような厳しい現実があった。地域で生まれた若者にとって、職場がないために村に残るという選択の可能性が非常に低いこと、それに対して親も「村に帰ってこいと言うことが出来ない」という現状である。しかしそれは、この地域が活気も働く場所もなく、魅力がない場所であるという意味ではない。昭和村に到着した当初は、想像を超える田舎で15日間もいるのかと感じたが、実際に滞在してみて15日間は本当に短く、残すべき田舎だと感じた。地域の住民を始めとし、当事業の担当者やNPO 苧麻倶楽部の方々にお世話になっていくうちに、初対面で誰だかも分からない私に対して本当に良くしてくださった。何よりもみなさんが昭和村に誇りを持ち、楽しんで生活しているように感じられた。

この場を借りて、お礼を申し上げます。15日間という短い期間でしたが、私にとっては一生忘れられない15日間でした。昭和村で学んだことを今後自分の生まれた土地に持ち帰り、活かしていきます。共に地域のことを考えながら、日々頑張っていきましょう。本当にありがとうございました。

「からむし織りの里」昭和村

派遣地域：福島県大沼郡昭和村

派遣期間：2009年08月23日から2009年09月06日までの15日間

体験調査員氏名：鄭 叡智（ジョン イエジ）

立教大学 観光学部交流文化学科 3年

派遣地域の概要

昭和村は、福島県の西部に位置し、総面積 209.34 km²を有する農産村で、南は越後山脈である帝釈荒海連峰より北に進んだ駒止産地から Y 字に張り出した御前ヶ岳(1,233m)、博士山(1,482m)、志津倉山(1,203m)と西脈としての黒岩山、大妻山に囲まれた盆地状の中にあり、ほとんどが山岳地帯となっている。人口は 1,632 人（平成 17 年）で、老年人口比率は約 52.4%(平成 17 年)であり、かなり高齢化が進行している地域でもある。四季がはっきりしていることが特徴で、雪国体験プログラムがあるほど冬の積雪量が多い。基幹産業は農業で、カスミソウの生産面積は日本一である。地域の固有文化としては 600 年の伝統を持つ「からむし織り」（苧麻とも言われるイラクサ科の多年草で、茎の皮から繊維を採り、糸を製して越後縮などの布を織る）があり、織姫制度といった後継者養成制度を設けるなど伝統文化にも力を入れている。

（参考：「からむし織りの里」昭和村：村制施行 80 周年昭和村勢要覧、昭和村資料編）

体験内容

- 大芦地区地域資源調査 ●からむし織の体験及び織姫さんとの交流
- ワークキャンプとの交流 ●農作業やカスミ草選花研修 ●ホームステイ及び地域自然・文化体験

スケジュール

日程		内容		体験場所及び宿泊先
日付	曜日	(上段:午前)		
		(中段:午後)		
		(下段:夜間)		
8月23日	日	AM	(来 村)	昭和村内 ワークキャンプハウス
		PM	オリエンテーション、村内散策	
		夜	フリー	
8月24日	月	AM	関係者挨拶、オリエンテーション	役場、昭和村内、小野川分校 ワークキャンプハウス
		PM	関係者挨拶	
		夜	歓迎会	
8月25日	火	AM	地域資源調査概要説明	役場、昭和村内 ワークキャンプハウス
		PM	村内散策	
		夜	フリー	
8月26日	水	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
8月27日	木	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
8月28日	金	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
8月29日	土	AM	フリー	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	週末ワークキャンプ参加	
		夜	フリー	
8月30日	日	AM	フリー	からむし織りの里 ワークキャンプハウス
		PM	織姫さんインタビュー	
		夜	フリー	
8月31日	月	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区、役場 ワークキャンプハウス
		PM	調査関係意見交換	
		夜	フリー	

9月1日	火	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
9月2日	水	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
9月3日	木	AM	カスミソウ選花研修	カスミソウ選花場、織姫研修場 温泉、ホームステイ
		PM	織姫さんとの交流	
		夜	温泉体験、民泊	
9月4日	金	AM	地域資源調査取りまとめ	役場、昭和村内 ワークキャンプハウス
		PM	体験調査員報告会(役場)	
		夜	村内散策	
9月5日	土	AM	総括	大芦地区、会津若松、小野川分校 ワークキャンプハウス
		PM	会津地方観光	
		夜	送別会	
9月6日	日	AM	帰省	
		PM		
		夜		

活動紹介

●大芦地区地域資源調査

今回の事業でメインとなる活動である。昭和村は昭和2年に野尻村と大芦村が合併し現在の昭和村になっているが、今回の調査は大芦地区を対象とし、農地の活用、農業後継者、耕作放棄地、空き家、観光・交流事業に関する村民の意識を聞き取りする形で調査を行った。調査の結果は報告会でも報告したが、特に注目したい結果は以下の通りである。今回の調査は約70件を対象としたが、その内のおよそ87%が農業の後継者がいないという結果が出た。そして、今後の農業の形も自分ができる分だけ農業を続けると答えた数が52件もあり、何らかの対策がない場合休耕地が増えていくという厳しい現状が伺えた。しかし、耕作放棄地の活用や空き家、観光・交流事業に関する事項に関しては好意的な回答が多かったため、今後の事業の推進において村人の協力も期待できると考えた。

●からむし織の体験及び織姫さんとの交流

「からむし織」は春から冬までの長い期間にかけて製造が行われるが、からむし織の交流館でコースターを作るなどの一部の作業を体験することができた。また、織姫としてからむし織の研修をしている方々との交流の時間も持った。

●ワークキャンプメンバーとの交流

昭和村には、ワークキャンパーとして来村している世界各国（アメリカ、韓国、スロヴァキア、台湾、スペインなど）からの若者がいて、同じ宿舎や共同作業などによって交流することができた。

●農作業やカスミソウ選花研修

ワークキャンプの活動にも参加し農作業体験をした。また、地域特産物であるカスミソウの選花作業にも参加し、農業者との交流も持った。

●ホームステイ及び地域自然・文化体験

地域住民との交流会やホームステイをすることで地域の文化をたっぷり味わった。また、村内や周辺地域を観光することで昭和村の自然や文化に触れることができた。



左から

- ・からむし織体験
- ・ワークキャンプや地域住民との交流
- ・農作業体験
- ・聞き取り調査での地域住民

参加動機

学校の掲示を通じて今回の「地域づくりインターンシップ」を知った。本事業は、現在私が研究しているテーマや興味を持っているテーマとの関係が深い事業だったので、参加することにした。

現在、私は観光や文化人類学を専門として勉強している。私の研究テーマは「文化を利用して地域をどのようにプロモーションするか」である。今回私が派遣された福島県の昭和村は本州雄一の「からむし織り」の産地で、特有の文化を持っている地域であり、私にとっては意味深いところである。

また、「地域の観光化による地域内の人々の意識」といったテーマにも、現在観光事業にも力を入れている昭和村は最適の場所であった。

以上の二つのテーマをメインとし昭和村を体験したいということと、少しながらも地域づくりに貢献したいということを目的に、今回の事業に取り組んだ。

体験の成果

まず、少子高齢化に伴う地域の過疎化問題や耕作放棄地の増加を食い止めるために、様々な人が昭和村で努力していることが分かった。昭和村のために頑張っている人々は役場の関係者だけではなく、NPOの方々、村の住民、更に村外の方々もこの地域のために奮闘していることが分かった。現在、各自治体は地域活性化や地域づくりのために様々な事業を行っているが、このような事業に一番大事なものは地域を愛し応援する人々の存在ではないかと考えた。

また、昭和村の豊かな自然環境（四季がはっきりしていること、綺麗な空気、美味しい水、素敵な夜空など）、優しい人々、そして、「からむし織り」といった素晴らしい文化まで、二週間という短い間ではあったが味わうことが出来て嬉しく思った。

本事業に参加することで考えて行きたいと思った箇所については、聞き取り調査作業を含め村に住むことによって直接体験することができた。

まず、「文化を利用して地域をどのようにプロモーションするか」という課題に関しては、「からむし織り」といった昭和村の伝統を例として考えてみることができた。「昭和村からむし織りの里」といったキャッチフレーズからも分かるように、昭和村は「からむし織り」を利用し、「織姫制度」や作品のギャラリーでの展示、からむし織りフェアなどで、「からむし織り」だけではなく昭和村を発信していることが分かった。さらに、地域伝統文化や地域産業との間の「からむし織り」の位置づけへの悩みも伺えた。

また、「地域の観光化による地域内の人々の意識」といったテーマに関しては、観光・交流事業についてのアンケート調査により村人の意識を把握することができた。アンケートの結果は、「観光・交流事業は必要である」と応えた村人が約 87%、「観光・交流事業推進にあたり協力できる」と応えた村人が約 57%であった。この結果は私の予想を上回る数値でもあり、かなりの村人が観光・交流事業に関して好意的であることが分かった。また、観光・交流事業に関してのアイディアや問題点を含め、地域の人々の率直な意見も聞いた。現状として少子高齢化や過疎化問題といった難問が昭和村の課題としてはあるが、地域の人々の観光・交流事業への高い意識が伺えたので、今後の事業推進の可能性がみえた。

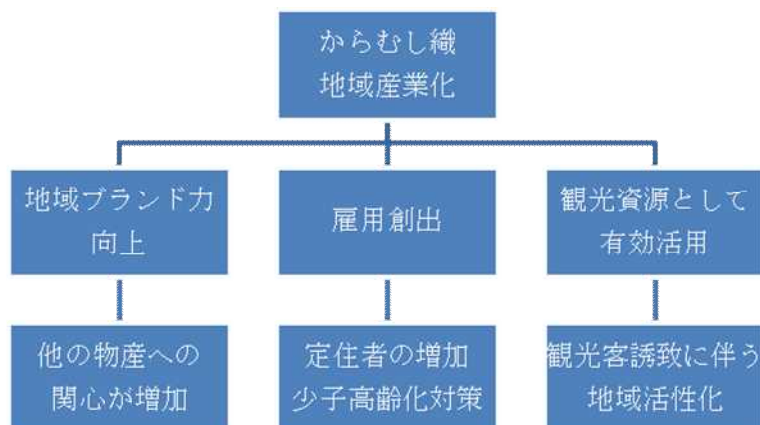
最後に、昭和村の国際的環境について述べる。昭和村を訪問する前には、「昭和村に訪問する外国人って珍しいものだろう」と漠然と思っていた。しかし、実際訪問した昭和村は、国際ワークキャンプメンバーを始め定住者の方々まで多様な国籍の方が集まっている所で、私のイメージを覆す国際的な地域であった。さらに、「からむし織り」の関係で韓国の舒川郡との交流関係を持っていることも分かり、静かな環境の中での活発な交流が行われている地域であることが分かった。

地域への提案

大芦地区地域資源調査で、昭和村の少子高齢化や過疎化問題の原因でもあり、解決策でもあることとして「雇用の場」があることが分かった。確かに、少子高齢化や過疎化問題は地方ではしばしばある問題で、「雇用の場」の問題も昭和村だけに極限している問題ではない。しかし、他の地域では真似できない昭和村独自の資源を利用すれば、このような問題を食い止めることができるのではないかと考え、以下のことを提案する。

昭和村からむし織りのブランド化

～からむし織りのブランド化による付加価値の創出～



私が提案したいのは「昭和村からむし織のブランド化」である。からむし織のブランド化により付加価値を創出することが本提案の目標である。

左の図は提案の展開を図式化したものである。からむし織を地域産業化すれば、地域のブランド力は向上し、産業化により雇用も創出することができる。さらに、昭和村の観光資源としても有効活用もできると考えられる。また、このような効果のみならず、

図式の下に書いてあるような付加価値も創出できると考えられる。それでは、どのようにからむし織をブランド化すればいいのか。以下では、私が思う、からむし織をブランド化する方法を紹介する。

まず、昭和村の「からむし織」は世の中でどのように位置づけをしているのか考えてみた。昭和村のからむし織は人間国宝制度や織姫制度などの国の支援を受けている伝統文化である。そして、本州雄一の生産地であり、高品質で技術者も保有している。しかし、値段が高く供給量にも上限があり、世界的不況の中で一般洋服や繊維に値段で勝負することは難しい。さらに、現在の販売ルーツが少ないのも問題である。しかし、最近の消費者の間には、価値があるものには出費を惜しまない消費傾向や増えている。また、着物マニアはもちろんのことで、オガニックブームやLOHASの台頭は、からむし織の市場の拡大可能性を見せてくれるのではないかと考えた。

したがって、このようなニーズを確保するための戦略をとることで、からむし織のブランド化、そして、地域への付加価値を創出することができるのではないかと考えた。

その具体的戦略とは、ブティックのような形で都心部からむし織の店を開くことである。そのターゲットとは上に述べたような顧客層で、からむし織の特徴上受注型商品の販売を中心とし事業を展開することが望ましいと考えた。また、からむし織に関する専門知識を持っている方の接客も必要であると考えられる。

上に述べたことは、私が思う、からむし織のブランド化の一つの方法である。したがって、ブランド化する方法はこのような方法に限っているわけではない。重要なことは、からむし織のブランド化による地域への付加価値の創出ではないか。また、伝統文化と伝統産業の間のバランスを保つことも大事だと考えた。

